



いちごの花保育園 「もう とどかない!」

みらい

2024.3

26

一般社団法人 さいたま市私立保育園協会 広報誌

Contents

会長あいさつ…P2

三須副会長「令和5年度 医療的ケア事業報告」…P3

丸山副会長「子どもの森づくり運動」について、各部会活動報告 予算対策部…P4

各部会活動報告 研修部、育成支援部…P5

各部会活動報告 雇用対策部、事務局活動報告…P6 わくわくがいっぱい…P7

保育園紹介…P8



すべての子どもたちが幸せに育つことのできる環境を

一般社団法人さいたま市私立保育園協会

会長

大野智子

(あおぞらウィンクルム保育園)



言葉の持つ力を大切に

さて、昨年の12月から1月にかけて埼玉県内において、不適切保育が行われたことは、皆様も報道等でご存じのことと思います。昨年末には、埼玉県内に於いても、子どもの頭を未使用のおむつではなく、苦手な食べ物を無理やり食べさせる、教室に子どもを一人にする、劇の練習中にくびをし、た子供に怒鳴るなど行為が報道されました。保育の一环のつもりで行ったことですが、子どもの気持ちを理解できなかったのでしょうか？

同じ言葉でも、口調や態度で印象は大きく変わります。言葉の持つ力からは、より豊かに変容するツールだと私は思っております。

人の気持ちを乗せて、時代と共に変わってくる言葉。SNSなどの新しいメディアでも、多くの言葉が飛び交い

ます。そんな時代だからこそ、今一度、言葉の力を見直して見ませんか？言葉には、見えない力があります。

例えばアメリカ合衆国における有名な演説の時のフレーズに Yes we can (やればできる!) I have a dream (私には夢がある!)

などのフレーズは、皆さんの記憶にもあるのではないのでしょうか？

老若男女を問わず、すべての人の心を揺さぶる感動的な言葉だと思います。

また、「痛い痛い飛んでけ〜」のような、おまじないな言葉など、言葉は人の心に影響を及ぼします。私たち大人が、日本語をより良く使うための方法を探り、適切な声掛けをするにより、子どもたちは心豊かに成長してゆくことでしよう。

結びに、皆さま方ますますのご健勝と幸多い未来をを祈り申し上げます。いさつとさせていただきます。

この度、令和6年元日に起こった能登半島地震により甚大な被害がもたらされ、犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表します。また、被災された全ての方々に、心からお見舞いを申し上げますと共に、被災地の皆さまの安全を心からお祈りし、一日も早い被災地の復旧・復興を願っております。

さて、令和5年10月における厚生労働省人口動態統計速報によると、出生率は72万6,416人になるとの見込みで、令和4年に生まれた子どもは、77万759人と、昨年よりも5.8%程度減る見通しとなり、過去最低を記録しました。このような少子化の背景には、女性の社会進出に伴う晩婚化・晩産化、不妊、コロナ化の影響、経済面での不安など、さまざまな要因があると考えられています。

一方で、児童相談所における令和4年度の児童虐待相談件数は21万9,170件と過去最多を更新しました。埼玉県においても、令和3年度は14,370件、令和4年度は15,512件と8%も増加しています。

令和5年4月には「こども基本法」が施行されるとともに、その施策推進の司令塔としてこども家庭庁が創設され「こどもまんなか社会」をスローガンとして、実現に向けて動き出しました。令和6年度には、「こども誰でも通園制度(仮称)」、母子保健と育児相談支援を担う「子ども家庭センター」、地域子育て相談機関いわゆる「かかりつけ相談機関」の新規3事業の創設など、子ども・家庭福祉施策は大きな転換期を迎えています。大人の視点ではなく、子どもの視点をしっかりと盛り込み、子育てに携わる私たちの意見にも耳を傾けて策定してほしいと願います。

令和5年度 医療的ケア事業報告

副会長 三須亜由美 (いちごの森保育園)

医療的ケア事業勉強会の開催は今年で3年目となりました。今年度は、新規の方向けに計3回開催しました。去年に引き続き、医療的ケア事業に興味関心がある・事業開始をされている保育園、行政の方を対象に、なないろ会での医療的ケア児(以下、医ケア児とする)の事例や入園の流れ等についての講義を行いました。加えて、医ケア児受入れ園の他園看護師にもご協力いただき、医ケア児受入れの現状や課題等も示していただきました。また、さいたま市では医ケア児の保育の充実を図るため、新たに「医療的ケア児保育支援センター」が開設され、なないろ会が運営法人となったため、勉強会という名前を変え、研修会を実施しています。

さいたま市内でも医ケア児受入れ園が増えてきたため、看護師交流会を実施しています。医ケア児が降園した後の30分という短い時間ですが、看護師同士で情報共有や意見交換を行っています。交流会以外でも、何かあれば気軽に連絡してほしいとお伝えしています。さらには、連絡会を開催し、行政と医療的ケア児を受け入れている保育園との「さいたま市の医療的ケアの今後の推進・意見交換」を行っています。このように、今年度は主に医ケア児受入れに関する支援体制構築に向け尽力してまいりました。

今後、さいたま市内の医療的ケア児受入れ園の理解と看護師の孤立化の防止による事業の継続を願い、皆様と一緒に事業の推進及び連携を行っていきたく思っております。



【行政と医ケア児受け入れ保育園連絡会】 保育課、区支援課担当者、医療的ケア児受入れ園園長・看護師等が集まり、連絡会を実施。医ケア児の体験保育や育成支援制度等の在り方の検討など、実例を交えながらさいたま市の医療的ケアの今後の推進・意見交換を行った。



【看護師交流会】 ZOOMにて、さいたま市内の医療的ケア児受入れ園の看護師同士の交流を行った。医ケア児を預かる中で、日頃感じている疑問や各園での対応等の情報共有や意見交換を行った。



【会場研修風景】 会場を借りパワーポイント等を使用し研修実施 第1回～第3回の勉強会を実施 行政関係者や園長、看護師、保育士が参加 ※医療的ケア児保育支援センター主催 第1回研修を実施。第2回目も実施予定。

【医療的ケア事業勉強会・研修…内容】

- 第1回…医療的ケア児とは・医療的ケアの理解、医療的ケア児受入れの体制整備についてI
- 第2回…医療的ケアの理解(経管栄養、血糖管理、導尿、人工肛門)、医療的ケア受け入れの体制整備についてII (いちご南保育園・いちごの森保育園事例(児童発達支援との連携、療育・リハビリの様子、医療的ケアが終了した事例・ケアが増えた事例) 保育園で医療的ケア児を受け入れて困ったこと、課題等(第1回勉強会アンケート 調査結果報告))
- 第3回…医療的ケア児受け入れ園での事例発表(他2園より)、医療的ケア児受け入れ保育園での医ケア児に関するヒヤリハット・アクシデント事例等(いちご南保育園、いちごの森保育園)、体験保育の動画紹介(いちご南保育園) 支援センターR5年度の入園相談事例、第2回アンケート 集計結果について報告

【さいたま市医療的ケア児保育支援センター研修…内容】

- 第1回…医療的ケア児とは・医療的ケアの理解(酸素療法、気管切開、経管栄養など)について、保育の様子) 医療的ケア児受入の体制整備I、医療的ケア児受入の体制整備II、保護者の声(手紙代読、インタビュー) 子育て支援センターへの相談事例など
- 第2回…【予定】(いちご南保育園・いちごの森保育園事例発表(児童発達支援との連携含む)、医療的ケアが終了した場合・医療的ケアが追加となった場合の対応、ヒヤリハット事例、緊急時への備えと対応、日々の保護者とのかわり(お子さんの様子の伝え方、手術前や休みの際の電話連絡、療育的支援等) 医療的ケア児の就学準備(訪問看護師や学校・保護者との連携)

副会長、浦和ひなどりの丸山です。私からは令和5年度に当協会が進めさせて頂いている「子どもの森づくり運動」について、11月の定例会でお伝えした内容と被ってしまうかもしれませんが、少しお話をさせて頂きたいと思えます。保育所保育指針にも自然体験に関する記述は数多く見られますが、乳幼児期にとって自然との関わりが大切だということに、疑念を抱く保育者は少ないのではないのでしょうか。科学的にも自然体験は子ども達の育ちにとって、自己肯定感の高さや参加意識の高さ、はたまたコミュニケーション能力の高さなど「非認知能力」と呼ばれる様々な力の育ちに良い影響を及ぼすことが、様々な研究や調査などから見えてきています。また地球温暖化などを筆頭に環境問題が叫ばれる中で、特にヨーロッパでは持続可能な社会に向けて次世代を育む教育・保育を考える上で、自然との関わりは優先順位を増してきているようです。

しかし我々の住むさいたま市内に目を移すと、都市化が進み日常生活の中で大人でも自然との接点が益々無くなってきている昨今、子どもと自然との関わりは目に見えて後退してきているのが実情ではないでしょうか。駅前の景色や住宅街の風景はどこも似たり寄ったりで、郷土ならではの四季折々の自然を感じるものがほとんど無い子ども達が将来、「故郷」という言葉を聞いた際に、原風景としてどんな景色が思い浮かぶのでしょうか。こうした現状を踏まえ、私たち乳幼児期の子ども達と関わる人間は、環境を通して育つとされる

子ども達に向けて、日常的にアクセスできる豊かな自然のあり方について、もっと感度を高めていく必要性を強く感じています。釈迦に説法かもしれませんが、元来、ドイツのキンダーガーデン(子どもの庭)という言葉から私たちの幼稚園、保育園という言葉ができていくはずですが、しかし多くの園の園庭を見ると、大変失礼かもしれませんが、(庭や園)というイメージとは程遠い、小さな小学校が連想される様な、緑が少なく平坦で何も無い様な園庭が多いのではないのでしょうか。こうした現状から一歩踏み出すためには、私たち保育者がまずは学び合い、自然と子どもが共存できるような、緑豊かな園作りを共に進めていきたいと考えています。また将来的には行政や地域などに訴えながら、豊かな自然と子どもとの接点を地域に作り上げていくような運動として、志を共にできたらと考えております。最後に「森づくり運動」と言うワードが高く、身構えてしまうかもしれませんが、身構えて、ぜひ皆さんの園でも身近なところから、草木の一本からでも構わないので、植樹や栽培を試してみたり、また近隣の自然を活用して、自然と触れ合う様な機会を少しでも模索して頂ければ幸いです。



各部会活動報告

予算対策部

予算対策部では、会員の皆様の声と他市の情報を集め、さいたま市への予算要望書を作成しています。また、保育業界が直面している問題について考え、市の行政・各会派へ提出する活動をおこなっています。

令和6年度の要望書の提出

令和5年11月2日(木)、さいたま市長を訪問し、来年度の要望書を提出しました。

要望書ワンポイント解説

令和6年度に向けた最重要項目は、『物価高騰における処遇の堅持・改善現行制度の拡充・運営人員に係わる拡充』『借地料の補助借地に対する補助の創出』『看護師配置等多様な保育ニーズに対応する保育処遇の改善』の3点としました。

担当課との懇談では、「コロナ禍による保育園の利用控えと令和4年の出生数は80万人を下回り、保育園は、定員割れが加速しています。」と強くお伝えしました。

具体的な対策として乳児途中入所促進事業の復活や柔軟な運営体制の構築(定員変更等)ができるよう検討をお願いしました。



各部会活動報告

研修部

今年度も研修部では様々な講習会を企画・開催しました。研修部の目的としている「保育の質の向上」のため、今後も各園で情報交換をしながら、共に学び合う活動をおこなっていきます。

①講習会

「保育所における食事中の事故防止について」「衛生管理について」「離乳食の進め方について」

日時：令和5年6月29日(木) 午後2時～4時半
場所：子ども家庭総合センター オープンスタジオ
講師：さいたま市保育課 管理栄養士 福島 雅子氏

②調理講習会「アレルギーフリーの献立」

日時：令和5年9月8日(金) 午後2時～4時半
場所：国際学院埼玉短期大学 第一調理実習室
講師：さいたま市保育課 管理栄養士 福島 雅子氏

③主任保育士講習会

「保育所における主任保育士の役割」「良好な人間関係作り」「業務の効率化」他

日時：令和5年10月13日(金) 午後2時～4時半
場所：子ども家庭総合センター オープンスタジオ
講師：ゆびすい労務センター東京支店 社会保険労務士 大塚 佳治氏

④講習会「食物アレルギーについて」

日時：令和5年11月9日(木) 午後2時～4時半
場所：子ども家庭総合センター オープンスタジオ
講師：さいたま市民医療センター 小児アレルギーエデュケーター 森茂 亮一氏

⑤講習会「離乳食の進め方」

日時：令和5年12月12日(火) 午後2時～4時半
場所：子ども家庭総合センター オープンスタジオ
講師：さいたま市保育課 管理栄養士 福島 雅子氏

⑥調理講習会「行事食の献立」

日時：令和6年1月25日(木) 午後2時～4時半
場所：国際学院埼玉短期大学 第一調理実習室
講師：あおぞらウィングルム保育園 園長 大野 智子氏

レシピ紹介 ～パプリカのキッシュ～

材料 (幼児6人分)

- 赤いパプリカ 1/2個
- 薄力粉 適宜
- 鶏ひき肉 15g
- 玉葱(みじん切り) 10g
- オリーブオイル .. 小さじ1/2
- 鶏卵 1個
- ピザ用チーズ 15g
- パン粉 5g
- 牛乳 15g
- 塩/こしょう 適宜

作り方

- ①フライパンにオリーブオイルを入れ鶏ひき肉、玉葱を炒め冷ます。
- ②ボールに鶏卵を溶き、A、粗熱をとった1を入れ混ぜる。
- ③赤パプリカの内側に薄力粉をふり、2を入れる。
- ④くしゃくしゃにしたアルミホイルの上に3を置き180度のオーブンで20分焼く。
- ⑤6等分に切り分ける。

(メニュー提供:福島 雅子氏(市保育課))



育成支援部

今年度新たに立ち上がった育成支援部では、育成支援について行政との意見交換をしながら、配慮を必要とするお子さんへの対応について学んでいます。今年度は第一歩として、以下の研修を開催しました。参加者からは、保護者の方々への寄り添い方等、数々の事例が参考になった、グループワークが出来てよかった、等の感想を多く頂きました。

日時：令和5年10月26日(木) 午後2時30分～午後4時
場所：「気になるお子さんの保護者への関わり方」(御講話とグループワーク)

講師：療育センター ひまわり学園 小関桂子先生
さくら草 杉本美弥子先生、石塚絵梨子先生



わくわくが いっぱい!

あおぞら保育園

なにがいるかな?



お散歩先の花だんで虫探し!「虫いるかな?」「僕にも見せて」夢中になって探していました。

たじま絆保育園

楽しいに夢中になれるDIY園庭



子どもの発達を促し遊びの楽しさに夢中になれる園庭を目指しています。

中浦和たいよう保育園



水遊び
手作り石けんで水遊び・園庭にて手作り石鹸を使って泡を楽しみながら水遊びをしました。



マット運動
みんなでマット運動!室内でマット運動をした際に寝転んで記念撮影をしました。



小麦粉粘土遊び
ドロドロな小麦粉の感触を楽しみました。

エンゼル保育園

桜が満開



お散歩の途中でお花見会をしました。

遊具遊び



滑り台の階段一人て上手に登れました!

各部会活動報告

雇用対策部

雇用対策部では、保育士不足の問題を解決していくため、就職フェアの企画や準備・当日の運営をおこなっています。また、保育士養成校での授業をおこなったり園見学を受け入れたりして、学生の方と直接触れ合う機会を大切にしています。

①就職フェア

日時: 令和5年9月30日(土) 午後1時~5時
会場: レイホックホール(市民会館おおみや)6階 集会室
10法人が参加、23名の方にお越しいただき、参加者には自由にブースを回ってもらいました。さいたま市のバスツアーからご参加の方や事前予約者に加え、当日参加の方にも多数お越しいただき、和気あいあいとした雰囲気活気あふれるイベントとなりました。



②出前授業

令和5年度は、全10園様に埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校への出前授業にご協力いただき、保育園見学や体験についても受け入れいただきました。学生さんからも授業の感想をいただき、大変喜ばれる出前授業となりました。

出前授業受け入れ園(順不同)

- ・南浦和たいよう保育園 ・さいたまたいよう保育園
- ・南よの虹保育園 ・ハーモニー保育園
- ・さいたまちとせ保育園 ・いちご保育園
- ・ルミエール保育園 ・浦和みその保育園
- ・南与野たいよう保育園 ・本郷保育園
- ・今羽保育園 ・遊美保育園

事務局活動報告

事務局ではさまざまな研修を企画・実施しています。次年度も奮ってご参加ください。

キャリアアップ研修(あいばれっと1階 オープンスタジオ)9~18時

今年度も埼玉県からキャリアアップ研修実施機関として指定を受け、キャリアアップ研修を実施しました。

①乳児保育

日程: 令和6年1月20日(土)、2月9日(金)
講師: 社会福祉法人宮原ハーモニー 理事長 島村和宏氏

②幼児教育

日程: 令和6年2月16日(金)、22日(木)
講師: kk reserch 木村和孝氏

③障害児保育

日程: 令和6年2月3日(土)、17日(土)
講師: 社会福祉法人創人会 統括園長 笠原栄希氏

④食育・アレルギー対応

日程: 令和5年11月25日(土)、12月2日(土)、7日(木)、15日(金)
講師: 社会福祉法人誠心会 あおぞらウイング保育園 理事長・統括園長・管理栄養士 大野智子氏

⑤保険衛生・安全対策

日程: 令和6年1月25日(木)、2月8日(木)
講師: 社会福祉法人 美桜里会 理事長 田仲雄貴氏

⑥保護者支援・子育て支援

日程: 令和5年9月23日(土)、10月7日(土)
講師: 社会福祉法人みんなぎ 保育園園長 相川英輝氏

⑦マネジメント

日程: 令和5年10月14日(土)、28日(土) 講師: Planet force 株式会社 代表取締役 星野優美子氏

保育士養成校関係者との情報交換会

令和5年9月5日(火)、あいばれっとにて、保育士養成校の皆様と保育園関係者との情報交換会を実施しました。養成校からは12校17名の先生方が参加し、保育園関係者はさいたま市職員、(株)ネクストビート保育士バンク担当者を含む30名が参加。7つのグループに分かれ、「さいたま市で就職する保育者を増やすには」を主なテーマとし、学生の就職状況や人材育成についての情報・意見交換をおこないました。



新任研修

あいばれっとで2回にわけておこなわれました。それぞれ①26名、②35名が参加し大盛況となりました。



- ①日程: 令和5年8月3日(木)
講師: 第一生命保険株式会社 教育担当 課長 浜野麻衣子氏
内容: 保育現場に活用できる新任職員マナー研修会
- ②日程: 令和5年10月5日(木)
講師: 社会福祉法人エンゼル会 理事長 和田明子氏 社会福祉法人ひなどり保育園 理事長 丸山和彦氏
内容: リズム体操、講義「不適切保育について」

保・育・園・紹・介

西区



**保育園ハニーガーデン
西大宮**



園長 佐藤 元信

保育園ハニーガーデン西大宮は、社会福祉法人奏幸会の第3園として、令和5年に開園した定員90名の保育園です。

「自分を好きになる」という自己肯定感を育てる保育に力を入れ、「やらせる」ではなく「自分で選ぶ」、「考える」を尊重しています。自分で選んで考えた行動が認められ、成功したという体験(成功体験)を積むことが、自己肯定感につながると考えています。

『子どもが主体』の保育を目指し、職員一同で常に話し合いをしながら、「どうしたらいいだろう?」「やってみてからまた考えようかな?」など、自由保育の実践に向けて、試行錯誤を繰り返しながら保育を続けています。

3、4、5歳を1つのクラスとした異年齢保育を実践しています。さまざまな生活・遊び・関わりを共有することで、互いに学び合える機会をより多く持てるようにしています。「頼りにしたり、頼りにされたり」という周りを必要とし必要とされるという経験や「自分が誰かにしてもらったことは、自分も誰かにしてあげたい」といった自然な感情も生まれてくることを期待しています。

西大宮園では、医療的ケア児を対象に、保育施設において日常生活を営むために必要な医療的ケアを提供するとともに、心身の状況に応じた適切な保育が受けられるよう取り組みを進めています。

大宮区



親愛大宮保育園



園長 福本 学

社会福祉法人愛心会 親愛大宮保育園(定員87名)は令和5年4月に開園いたしました。

【親】と同じような【愛】をもって子どもたちに寄り添う、こちらが園名の由来です。保育理念【生きるって楽しい】保育目標・元気で明るい子ども・自分を大切にできる子ども・見て、学んで、考えて、工夫する子ども・自分の言葉でつたえられる子どもを掲げておりますが、子どもたちだけではなく、保護者・職員にも向けられた保育理念・目標です。園での生活を通し、子ども・保護者・職員が共に学びあい、育ちあい、大切にしようとして【生きるって楽しい】と笑いあうそんな関係・園でありたいです。

当園の特徴としては、週に2日グループ内の英語講師が来園し英語とふれあったり、ストレッチからマット運動・鉄棒・跳び箱で、体を動かすことで子どもの基礎体力を伸ばし、脳に適切な刺激も与える体操も外部講師を招き取り組んでいます。保育園が住宅街の中にあるのですが、来年度からは保育園内に親愛農場をつくり子どもたちと1年を通じて野菜をつくり自然の恵みを体感していきます。

職員・子ども・保護者が親愛に入ってよかった、地域の方から親愛ができてよかった、と思ってもらえる関係になれるよう、楽しみながら過ごしていきます。

南区



**保育園
クレヨンハウス**



園長 吉田 浩子

保育園クレヨンハウスは、長年ナーサリールームとして運営してきましたが、園舎を改築し、令和5年4月より認可園として、新たにスタートしました。

近くには浦和競馬場があり、広場でおもいきり体を動かしたり、夏には園庭で泥んこ遊びや、水遊びを楽しみ、遊びの中で子どもたちの育ちを大切にしています。

保育室はワンフロアになっており、小さい子たちは、お兄さん・お姉さんを見て育つ、大きい子たちは見られて育つ環境作りを行い、異年齢での関わりも多くもてるようにしています。

3歳児からは、ワーク・体操・メロディオン等の活動も取り入れ、子どもたちの興味関心を広げながら、様々な活動を通して自分の好きなこと、得意なことを見つけられるような保育を行っています。

また、プランター菜園、じゃがいも・さつまいも掘りや梅シロップ作り、年長児では田植え体験やみそ作りなどを行い、食育にも力を入れています。

園生活での様々な体験を通して、心身ともに健やかに育ってほしいと思っています。

緑区



**浦和あかつき
保育園**



園長 工藤 英二

社会福祉法人昭友会は、令和4年9月に設立、令和5年4月に浦和あかつき保育園(緑区原山、定員90名)を開園しました。

当園は知育・体育・心育・食育のための活動を積極的に取り入れ、立派な心と体を造る保育を目指しています。

特色①は、「学びの力」を大切に保育していくこと。学研・英語・ダンス・サッカー・体操教室など、専門講師から学ぶ時間を設けています。思い切り身体を動かす「動」の活動と、園内で製作や学習に集中して取り組む「静」の活動を一日の中に必ず取り入れ、互いの教育効果が高まるようにしています。

特色②は、「保育のみえる化」を進めていること。毎日子どもの様子を写真とコメントで配信、誕生会などの行事や制作などの活動の様子を動画で配信し、お迎えに来る方にもフォトフレームで動画を観ただけのようにしています。保護者の方は子どもの様子がしっかりと分かり、子どもの発見や喜び、達成感に共感し、「子育てが楽しい」と感じてもらいたい。職員の保育に対する喜びも含めて、一緒に笑顔になれる保育園を目指しています。

特色③は、「食育活動」の充実。園庭の周りを菜園として、季節に合わせた野菜を育て、収穫し、調理して食することを一年を通じて行っています。収穫できた野菜は、ご家庭にお持ち帰りしてもらい、家庭での食育にもつなげてもらっています。

さらに、通園していない地域の方を対象に、月1回園庭開放(カルガモクラブ)を行い、地域の皆様の子育て交流が広がる場所としても利用いただいています。今後も地域の皆様に喜ばれる子育て支援施設として、職員一同より良い保育の提供に努めてまいります。